

# Ⅲ 活動記録

## 1 展覧会

- ・出品リストについては、他所蔵家作品のみ詳細を掲載した。
- ・所蔵先、及び講師の所属は開催当時のもの。

### 平成 29 年度

#### 特別展「鏑木清方没後 45 年 女性美と自然美 —神奈川とのゆかり—」

大正初め、清方は、日本画壇から美人画の名手として注目されていたが、大正 4 年から美人画を主軸としつつ、新たな表現を求めて自然の風景に重きを置いた作品を描くようになった。やがて、清方は神奈川の景色に魅了されていき、金沢に別荘を持ち当地の風景に度々取材した。本特別展では、明治から昭和に描かれた美人画作品や、金沢の風景から着想した作品を初公開の下絵とともに紹介した。

会期 平成 29 年 4 月 20 日(木)～5 月 24 日(水) (開館日数:31 日)

総入館者数 2,971 人(一日平均:96 人)

#### 関連事業

- 「市民講座」当館学芸員等による美術館や清方に関する講座。【開催期間】4 月 25 日(火)～29 日(土)
- 「日本画制作実演」【日時】5 月 6 日(土)、5 月 7 日(日) 13:30～15:30 【講師】松岡美樹子氏(日本画家)
- 「日本画ワークショップ」【日時】5 月 21 日(日) ①13:00～14:30 ②15:00～16:30
- 「鎌倉小町通り・八幡宮エリア ミュージアムめぐりスタンプラリー」【開催期間】5 月 3 日(水)～平成 30 年 3 月 31 日(土)

#### 関連記事

「女性美と自然美 —神奈川とのゆかり—」(NHK E テレ日曜美術館 アートシーン 4 月 30 日) 他 15 件

#### 出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
夏の朝	大正 4 年(1915)	絹本着色・軸	34.0×17.7	木原文庫蔵
色の港	大正 5 年(1916)	絹本着色・軸	142.0×51.0	同上
戻橋の小百合 (芝居十二ヶ月の内)	大正 6 年(1917)	絹本着色・額	34.3×24.0	同上
春宵	明治 44 年(1911)頃	絹本着色・軸	113.5×41.6	個人蔵
五十鈴川	昭和 18-19 年(1943-44)	絹本着色・額	68.1×84.5	個人蔵
木蔭の泉	昭和 42 年(1967)	紙本着色・額	56.9×41.5	個人蔵

#### 【所蔵品】

- 「春の立場茶屋(金沢春景)」「ためさるゝ日(右幅)」「朝涼」「清流」「鍾馗」「山百合」「風景(池)」「ふたつあちさみ」「風景(金沢・瀬戸)」「夕立雲」「游心庵漫筆(第八図)」「金沢絵日記 五」「京洛の花(肉筆回覧誌『紫紅』の内)」「秋草」(当館委託)
- 下絵 「筆捨松」「五月雨」「金沢瀬戸の夕潮」「寮の春雨」(初公開)
- スケッチ 「紫陽花」「牡丹」「八汐躑躅」「杜若」(2 点)「朝涼のためのスケッチ」(3 点)「藤」(2 点)「薊」「躑躅」  
「小田原 天神山」「木蓮」(2 点)「菖蒲」「芍薬」「雪ノ下画室よりのもみぢ」
- 『文藝倶楽部』口絵 「湯治場」「涼風」 『今様 夏の巻』口絵 「五月雨」
- 『講談雑誌』口絵 「菖蒲湯」「秋のおとづれ」
- 『清方美人画譜』 「幕間」「五月雨」「午後海」(下絵・完成品)「春雨の寮」「白壁」(下絵・完成品)「青き星」  
「初雪」「湖のほとり」(下絵・完成品)「島田くづし」「浜町河岸の秋」「青き星/浜町河岸の秋」  
(下絵)
- 歌川広重画 『草筆画譜』『鉄砲洲燈籠略図』『東海道風景図会』
- 長谷川雪旦画 『江戸名所図会』
- 書籍 『新浮世絵講義』『美人画二十題 画譜』『平潟湾近景』(『甦る幕末』)



## 特別展 『『續こしかたの記』刊行 50 周年記念 名品でたどる、清方のあゆみ』

文筆家として知られる清方は、晩年に半生を振り返り、随筆集『こしかたの記』(正・続)を世に出した。昭和 42 年(1967)に出版された『續こしかたの記』には、日本画家としての地歩を固めた大正初めから鎌倉に移り住んだ戦後までが綴られている。本特別展では、『續こしかたの記』の刊行 50 周年を記念し、大正から昭和にかけて清方の画業のあゆみを名品でたどった。

平成 29 年 5 月 27 日(土)～7 月 2 日(日) (開館日数:31 日)

総入館者数 3,057 人(一日平均:99 人)

### 関連事業

美術講演会「鏑木清方と金沢八景 一別荘(遊心庵)のことなど」

【講師】八柳サエ氏(横浜美術館主任司書/主任学芸員) 【日時】6 月 6 日(火) 13:30～15:30

「日本画材を使って、絵を描こう！」【日時】5 月 21 日(日) ①13:30～15:00 ②15:00～16:30

「日本画材を使って、絵を描こう！お好みで箔も使えます」

【日時】6 月 11 日(日) ①13:30～15:00 ②15:00～16:30

「鎌倉小町通り・八幡宮エリア ミュージアムめぐり スタンプラリー」

【開催期間】5 月 3 日(水)～平成 30 年 3 月 31 日(土)

「ブックカーニバル inカマクラ 2017」に協賛 パンフレット持参した来館者へのプレゼントと展示解説を実施

【日時】6 月 10 日(土)終日

「鎌倉の紫陽花と美術館を巡ろう」【日時】6 月 17 日(土)、25 日(日)、7 月 1 日(土) 10:20～12:00

### 関連記事

「a little known but good place! vol.1 鎌倉市鏑木清方記念美術館」(メトロガイド 6 月号) 他 15 件

### 出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
汀のあじさい	昭和 36 年(1961)	紙本着色・額	34.0×36.0	高島屋史料館蔵
戸塚の松	昭和 36 年(1961)	絹本着色・額	55.6×42.2	同上
鴨東静夜	昭和期	絹本着色・軸	128.0×41.0	個人蔵
団扇 汀のあじさい	昭和 36 年(1961)	団扇		同上
浅紫	昭和 28 年(1953)	絹本着色・軸	100.0×51.0	同上
雪の宵	大正 13 年(1924)	絹本着色・軸	143.8×50.4	同上
初夏の雨	制作年不詳	絹本着色・軸	126.0×41.7	同上
春雨	明治 41 年(1908)	絹本着色・軸	125.3×70.7	同上

### 【所蔵品】

「繪燈籠」「夏の柳井戸(柳乃井戸)」「柳の下に涼む娘」「あじさい」「ゆあみ」「大和路の或る家」「牡丹 一、二」

「崔承喜 一、二」「夏の生活」「金沢絵日記」「金沢絵日記五」「手賀沼」(当館寄託)

模写 勝川春章「四月 杜鵑」(「婦人風俗十二ヶ月図」の内)

下絵 「初冬の花」「先師の面影」「下町に灯のともる頃(今様絵詞の会)」「築地川みちしほ(今様絵詞の会)」

「小竹博士」

スケッチ 「金沢のあさり」「花水橋」「箱根甘酒茶屋」「西芳寺」「小夜中山」「唐招提寺南大門前」「御殿場からの富士」

「奥湯河原」「雪ノ下のあやめ」「崔氏像」

『文藝倶楽部』口絵 「梅雨晴」「そぞろあるき」

『少女界』口絵 「さみだれ」

『苦楽』表紙絵 「田舎源氏」(下絵・完成品)

『苦楽』名作絵物語 「金色夜叉」

小杉天外著口絵 『落花帖(下巻)』

田口掬汀著口絵 『伯爵夫人(前編)』

村井弦斎著口絵 『日之出島 朝日之巻 下』

泉鏡花著口絵 『薄紅梅』(下絵・完成品)

幸田露伴著口絵 『天うつ浪』

木村莊八作挿絵原画 『花の生涯』(初公開)

菊池幽芳著口絵 『筆子 初枝の巻』『百合子(中・後編)』『お夏文代(前編)』『月魄(上巻) 藤乃の巻』

その他口絵 「浴後」「A Japanese School-girl」

菊池幽芳・鏑木清方合作 『百合子画集(上編)』(口絵)『百合子画集(上・下編)』(挿絵)

清方意匠 「白地藍ろうけつ染紫陽花模様浴衣地」「テーブルセンター あじさい」

書籍 『柳小紋』『續こしかたの記』『蘆の芽』『御濠端』『こしかたの記』『築地川』『褪春記』『銀砂子』



## 企画展「清方の描いた 夏のけしき」

清方は、花火や夕涼みなど、季節の風物や行事が息づく東京の下町の人々の生活に取材した。特に、団扇や女性の浴衣姿など夏の風物は、最も描きたいと思った題材で、展覧会に出品するような大きな作品から雑誌の口絵などの小さなものまで幅広く制作した。本展覧会では、夏の趣豊かな作品や口絵を、日本画を描く手順とあわせて紹介した。

会期 平成 29 年 7 月 7 日(金)～8 月 27 日(日) (開館日数:45 日)

総入館者数 2,775 人(一日平均:62 人)



### 関連事業

子ども参加プログラム

「木版画の多色刷りに挑戦しよう！」【日時】7 月 21 日(金)、8 月 3 日(木) 9:30～11:30

「短冊に日本画材を使って絵と詞を描こう！」【日時】7 月 27 日(木)、28 日(金)、8 月 4 日(金) 9:30～11:30

「夏休み親子鑑賞」【開催期間】7 月 7 日(金)～8 月 27 日(日)

「親子で美術館へ行ってみよう！美術館で絵画鑑賞と日本画入門体験！」

【日時】7 月 26 日(水)、8 月 2 日(水) 9:30～11:30

「江戸電沿線 PASSPORT」【開催期間】平成 29 年 7 月 22 日(土)～平成 30 年 3 月 31 日(土)

江戸電パスポートを提示した来館者に絵はがきをプレゼント

「鎌倉小町通り・八幡宮エリア ミュージアムめぐり スタンプラリー」

【開催期間】平成 29 年 5 月 3 日(水)～平成 30 年 3 月 31 日(土)

### 関連記事

「企画展 清方の描いた 夏のけしき」(広報かまくら 7 月 1 日)

「ART 鎌倉市鎌木清方記念美術館「清方の描いた 夏のけしき」(花 SaKU 8 月号)

「企画展 清方の描いた 夏のけしき」(かまくら四季のみどころ 8 月号) 他 17 件

### 出品作品

「深沙大王」「新大橋之景」「砂浜少女」「夏の柳井戸(夏乃柳井戸)」「ゆかた」「雨華庵風流」「日高川 道成寺」「干物」  
「鯉」「君ヶ寄漫筆」「絵日記(里から町へ)」「朝夕安居(未定稿)」「蓮」(『田中素水第 33 回忌記念画帖』の内)「ひとつ契り」  
(『田中素水第 37 回忌祈念画帖』の内)

下絵 「霽れゆく村雨」「霽れゆく村雨」(小下絵)「雨華庵風流」「江戸五十題の一 八幡鐘」「物干台納涼」「花火」  
「八幡鐘」「風鈴」

スケッチ 「鉄線」「向日葵」「木槿・朝顔・露草」「竜胆」「茄子」「露草」「川開きの夜」「大磯」「鯛」

『苦楽』表紙 「あまのがは」「湯の宿」「宇治の蜚」「箱庭」

『婦女界』口絵 「茶屋の二階」 『女性』口絵 「笹團子」

『婦人世界』口絵 「星多き夜」 『文藝界』口絵 「夕涼み」

『文藝倶楽部』口絵 「蚊遣の煙」

『新小説』口絵 「空虚」

『講談雑誌』口絵 「盆提灯(清方書畫譜の七)」「恋の湊(清方書畫譜の八)」

『演藝畫報』附録 「對牛楼の旦開野(下絵・差上げ・完成品)」

泉鏡花著作口絵・表紙絵 『神鑿』『風流線』(下絵・校合摺・差上げ・完成品)『風流線』表紙絵

渡辺霞亭著作口絵 『新渦巻 光子の巻』

江見水蔭著作口絵 『海水浴』(校合摺・完成品)

稲岡奴之助著作表紙絵 『貴公子(後編)』 田村松魚著作表紙絵 『若旦那』

伊原青々園著作表紙絵 『新朝顔日記(前編)』

その他口絵 「彩色」「しほかぜ」「とんぼつり」「玉づさ」

うちわ 「美人 朝顔」「のれん」「日傘美人」

絵はがき 「霽れゆく村雨」

## 企画展 「手元で愛でる、卓上芸術-秋の情趣とともに-

大正期、清方が出品を続けた官展では、会場芸術と呼ばれる大作が数多く展示された。混雑した会場で、大画面の作品が、人々の肩越しに鑑賞されたこともあった。清方はこうした会場芸術や、部屋の床の間に飾って楽しむ床の間芸術とは異なる、手元で楽しめる「卓上芸術」を提唱した。本展覧会では、彩り豊かな卓上芸術の作品とともに秋の情趣あふれる作品を紹介した。

会期 平成 29 年 9 月 2 日(土)～10 月 25 日(水)

(開館日数:46 日)

総入館者数 3,200 人(一日平均:70 人)

### 関連事業

「限取りの技法で墨絵を描こう!」【日時】9 月 10 日(日) ①13:30～15:00 ②15:00～16:30

「鎌倉とアートを楽しもう!」

【開催期間】9 月 16 日(土)～12 月 3 日(日) 北鎌倉 葉祥明美術館と相互割引を実施

「日本画制作実演」【日時】10 月 7 日(土)～10 月 8 日(日) 13:30～15:30

【講師】長谷川幾与氏(日本画家)

第 12 回鎌倉芸術祭参加企画「朗読者 in KAMAKURA」鏡花語り 清方描く-ふたりの鎌倉物語-

【会場】極楽寺 客殿 【日時】平成 29 年 10 月 21(土)13:30～15:00 【出演】奈佐健臣氏(俳優)

「鎌倉小町通り・八幡宮エリア ミュージアムめぐり スタンプラリー」

【開催期間】平成 29 年 5 月 3 日(水)～平成 30 年 3 月 31 日(土)

「江ノ電沿線 PASSPORT」

【開催期間】平成 29 年 7 月 22 日(土)～平成 30 年 3 月 31 日(土)

江ノ電パスポートを提示した来館者に絵はがきをプレゼント

### 関連記事

「美人画に目奪われ 鎌倉で日本画家展」(読売新聞 地方面 9 月 23 日)

「鐫木清方「卓上芸術」の世界 あすから鎌倉で企画展」(東京新聞 神奈川版 9 月 1 日) 他 16 件

### 出品作品

「一葉女史の墓」「清子四歳像」「虫の音」「ほづき」「落葉焚く」「梅蘭芳 天女散華」「夏の思い出」「小楠公弁内侍を救う」「栗をむく娘」「龍膽」「菊慈童」「早見の藤太」「絵日記(東京湾)」「三郎窺幼将因(肉筆回覧誌『美術くら遍 一』の内)」「観世音菩薩(肉筆回覧誌『美術くらべ満記の三』の内)」

「注文帳 畫譜」

下絵 「菊花節」「少女像」「客間」「船住居」「氷店」「麗人影像 二(今様絵詞の会)

「麗人影像 三(今様絵詞の会)」「棧敷の客」(初公開)

スケッチ 「里の径」「柘榴」「菊」「龍膽」「舞妓」「少女横臥像」「女兒出生三日目」

『講談雑誌』口絵 「九月の海(清方畫譜の九)」「秋のおとづれ」

『演藝倶楽部』口絵 「茶屋の二階」 『文藝倶楽部』口絵 「こすもす」「あさ露」「八幡鐘」

『婦人倶楽部』附録口絵 「鳴沢宮の像」 『苦樂』表紙絵 「舞妓」(下絵・完成品)

江見水蔭著作口絵 『二人女王』『花』

渡邊霞亭著作口絵 『吉丁字(下巻)』『勝鬨(前・中編)』

田口掬汀著作口絵 『三晝夜』

物集梧水著作口絵 『罪の命』

小栗風葉著作口絵 『戀学生』

清方美人畫譜 「濱町河岸の秋」

「東京 築地川」『画集 東京と大阪』 「船住居」「氷店」「明石町」「伊達家水門」「亀井ばし」「鉄砲洲」「佃島」

「瀬化ける」「築地橋」「紫陽花の垣」「作者」

その他 『合本金色夜叉』口絵 尾崎紅葉原著『金色夜叉絵巻』挿絵



## 特別展 「清方 江戸東京の美しき面影」

東京の下町神田に生まれた清方は、江戸より続く市井の文化に触れながら幼少期を過ごした。成長してからは、父が所持していた江戸の地誌や名所を紹介した書物を座右の書とし、そこに描かれた地を辿るほど江戸の名所旧跡に強い関心を持つようになった。そして、日本画家になると、古きよき街並が戦災や開発により失われていく中、江戸そして明治の下町の風景を懐かしむように描いた。本特別展では、江戸の面影を残していた明治の東京を風情豊かに描いた作品を中心に紹介した。

会期 平成 29 年 10 月 28 日(土)～12 月 3 日(日) (開館日数:31 日)

総入館者数 2,663 人(一日平均:86 人)



### 関連事業

美術講演会「江戸美人から近代美人へその美しさを探る」【日時】11 月 7 日(火) 13:30～15:30

【講師】村田孝子氏(ポーラ文化研究所シニア研究員)

「胡粉を使って、日本画を描いてみよう!」【日時】11 月 19 日(日)①13:00～14:30 ②15:00～16:30

「鎌倉とアートを楽しもう!」

【開催期間】9 月 16 日(土)～12 月 3 日(日) 北鎌倉 葉祥明美術館と相互割引を実施

「鏑木清方と山口蓬春」

【開催期間】平成 29 年 12 月 2 日(土)～平成 30 年 2 月 25 日(日) 山口蓬春記念館と相互割引を実施

「江戸電沿線 PASSPORT」【開催期間】平成 29 年 7 月 22 日(土)～平成 30 年 3 月 31 日(土)

江戸電パスポートを提示した来館者に絵はがきをプレゼント

### 関連記事

「かながわ美の手帖 失われた風景への郷愁 美人画巨匠が描く世俗」(産経新聞 11 月 19 日) 他 15 件

### 出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
弥生の節句	昭和 9 年(1934)	絹本着色・軸	195.0×46.5	東京国立近代美術館蔵
端午の節句	昭和 11 年(1936)	絹本着色・軸	200.0×45.7	同上
螢	昭和 3 年(1928)	紙本着色・軸	44.4×51.2	東京富士美術館蔵
秋の色種	昭和 3 年(1928)	絹本着色・軸	40.0×51.2	同上
道成寺	昭和 3 年(1928)	絹本着色・軸	144.0×51.0	練馬区立美術館蔵
朧駕籠	明治 40 年(1907)	絹本着色・軸	110.7×42.1	個人蔵 (練馬区立美術館寄託)
春風春水	昭和 30 年代	紙本着色・軸	123.5×31.5	同上

#### 【所蔵品】

「笠の曲(娘道成寺)」「狐狗狸」「道行浮埒鷗」「雑司ヶ谷会式」「砧」「太夫」「喜寿」「築地明石町の船・詞」

模写 喜多川歌麿「當世踊子揃」の内「鶯娘」「道成寺」「三番叟」「にござえ 画譜(第九図)」

下絵 「鯛」「道成寺」「野崎村」「山茶花の窓」「柿と童」「茶の間の秋」「初雁の御歌」(小下絵)「榊神社奉納額」  
「街頭風景」「軽子橋 築地川界限」「佃の渡 築地川界限」「明石町 築地川界限」「合引橋 築地川界限」  
「築地河岸 築地川界限」

スケッチ 「ほおずき」「松茸」「沢潟」「あけび」「柿もみぢ」「雪ノ下画室東窓」「唐の芋」「萩」「柿」「栗」

『講談雑誌』口絵 「旅愁(清方畫譜の十)」 『新小説』口絵 「店暖簾」「祝ひ月 東京風俗」

『文藝俱樂部』口絵 「よき事さく」「ゆふ暮」「夜長」 『少年界』口絵 「秋の山」

『少女界』口絵 「観菊」 春風楼主人著口絵 『不破数衛門』

稲岡奴之助著作口絵 『花山花入』『憐れなる澄子』 前田曙山著作口絵 『矢口渡』

古愚庵主人著作口絵 『ゆるさぬ関』 小栗風葉著作口絵 『唐撫子(後編)』

松居松葉著作口絵 『無名城』

その他口絵 「ほづき」「秋漸く深し」「思ひ出」「栗むく女」「秋の旅」「菊」「秋ばれ」

表紙絵 松居松葉著『玄雪姫(後編)』 小栗風葉著『唐撫子(後編)』 川上眉山著『うす墨』

## 企画展 「清方と祝う正月」

清方は、正月を迎えると氏神様や七福神へ詣でて新春の吉事や慣わしを楽しんだ。正月二日の仕事始めには、硯や絵具皿を清めて心新たに絵を描き、弟子達との新年会のために、肉筆の羽子板も用意した。また、正月で賑わう街やそこに集まった人々の様子を描いたほか、清方は、明治から昭和にかけての東京の正月の風物を随筆にも書き残した。

本展覧会では、新春の風情を描いた作品や口絵とともに、正月を祝う清方の心情を随筆から紹介した。

会期 平成 29 年 12 月 8 日(金)～平成 30 年 1 月 14 日(日) (開館日数:28 日)

総入館者数 2,176 人(一日平均:78 人)



### 関連事業

「日本画材を使って、円や扇型の画面に絵を描こう！」【日時】12 月 17 日(日)①13:00～14:30 ②15:00～16:30

「新春福引」【開催期間】1 月 4 日(木)～1 月 14 日(日)

「鏑木清方と山口蓬春」

【開催期間】平成 29 年 12 月 2 日(土)～平成 30 年 2 月 25 日(日) 山口蓬春記念館と相互割引やプレゼントを実施

【トークイベント】「清方と蓬春の交流、ゆかりの地 鎌倉・葉山」

【日時】1 月 6 日(土)13:30～14:00 【会場】鎌倉市鏑木清方記念美術館

「鎌倉小町通り・八幡宮エリア ミュージアムめぐり スタンプラリー」

【開催期間】平成 29 年 5 月 3 日(水)～平成 30 年 3 月 31 日(土)

「江ノ電沿線 PASSPORT」江ノ電パスポートを提示した来館者に絵はがきをプレゼント

【開催期間】平成 29 年 7 月 22 日(土)～平成 30 年 3 月 31 日(土)

### 関連記事

「企画展 清方と祝う正月」(広報かまくら 12 月 1 日)

「舞妓」の画など 73 点 鏑木清方の功績紹介(東京新聞 12 月 9 日)

他 18 件

### 出品作品

「舞妓」「道成寺」「春や昔」「雪空」「松のうち」「歳旦」「白梅」「宝珠」「白梅」「僧房春蘭(牡丹の寺)」「清方意匠年賀状」

下絵 「春雪」「木下川探梅」「讃春」(小下絵)

スケッチ 「犬」「御殿場からの富士」「蕪」

『婦人公論』口絵 「歌留多會の夜」 『文藝界』口絵 「都大路」

『婦人世界』口絵 「元日の朝」 『女學世界』口絵 「紅梅」

『新小説』口絵 「虎ノ門(見立十二姿の内)」 『文藝俱樂部』口絵 「春を待つ」「餅むしろ」

『文藝俱樂部』附録 「軍国をんな雙六」「新案雙六當世二筋道」「時代美人風俗雙六」

鏑木清方・齋藤英朋合作「松の内」

『講談雑誌』口絵 「初夢(清方畫譜の一)」

『少女界』附録 宮川春汀・鏑木清方合作「歴史雙六」

『少女界』口絵 「クリスマス」「爐邊の少女談話會」

『苦樂』表紙・下絵 「松の内」「紅梅屋敷」

稲岡奴之助著作口絵 『三人書生』小英雄』

稲岡奴之助著作表紙絵 『小英雄』

瀬戸半眠著作口絵 『家内安全』

菊池幽芳著作口絵 『小ゆき(前編)』

村上浪六著作 『当世五人男の内川上三吉』(口絵差上げ・表紙絵)

その他口絵 「楽しき贈り物」「昔と今の学生」「貴婦人の一日」「年始客」「ちん年おめでとぅ」「初雪」

風呂敷・ふくさ 「扇子に橘」「凧と梅」「扇面に松と飴や」「松と藤」「氷梅」「張子の虎とキンカン」「扇面に竹と梅」

「梅」「扇子に藤と松」「うさぎ」

永井周山・作 押絵羽子板「明治風俗十二ヶ月」

参考資料 『上村松園と鏑木清方』展図録

## 企画展「鏗木清方 幻想と文学—明治・大正の文学者とのかかわり—」

清方芸術の豊かさの一つに、日本近代文学との深いつながりがある。清方は、少年の頃から文芸雑誌を愛読し、特に樋口一葉と泉鏡花の小説に魅了され、二人の小説の挿絵を手がけることを夢みていた。後に鏡花と深く親交し、鏡花の師・尾崎紅葉の知遇も得て、挿絵画家として活躍していった。日本画家になってからも、文学に取材した作品を描き、小説に登場する人物を美人画の表現に活かすなど、晩年まで、創作の源泉として文学への親しみを持ち続けた。本展覧会では、文学に関する作品と美人画をあわせて紹介した。



会期 平成 30 年 1 月 19 日(金)～2 月 25 日(日) (開館日数:33 日)

総入館者数 2,208 人(一日平均:67 人)

### 関連事業

「着物サービス」に協賛 【開催期間】2 月 1 日(木)～3 月 1 日(木)

着物を着た来館者へ入館料 50 円割引を実施

「鏗木清方と山口蓬春」【開催期間】平成 29 年 12 月 2 日(土)～平成 30 年 2 月 25 日(日)

山口蓬春記念館と相互割引を実施

【トークイベント】「清方と蓬春の交流と共通点」【日時】2 月 3 日(土)13:30～14:00 【会場】山口蓬春記念館

「鎌倉小町通り・八幡宮エリア ミュージアムめぐり スタンプラリー」

【開催期間】平成 29 年 5 月 3 日(水)～平成 30 年 3 月 31 日(土)

「江ノ電沿線 PASSPORT」【開催期間】平成 29 年 7 月 22 日(土)～平成 30 年 3 月 31 日(土)

江ノ電パスポートを提示した来館者に絵はがきをプレゼント

### 関連記事

「企画展 鏗木清方 幻想と文学 —明治・大正の文学者とのかかわり—」(広報かまくら 2 月 1 日) 他 20 件

### 出品作品

「暮れゆく沼」「金色夜叉の絵看板」「年増美人」「有卦自祝之絵」

「にぎりえ画譜」

下絵 「女歌舞伎」「妓女像(左幅)」「日本画家と挿絵画家」「一葉」(未定稿)

絵はがき原画 幸田露伴著「天うつ浪」・菊池幽芳著「乳姉妹」・尾崎紅葉著「金色夜叉」

『新小説』口絵 泉鏡花著「起誓文」「舞の袖」「紅雪録」「胡蝶之曲」「楊柳歌」

『婦人倶楽部』附録 「鳴沢宮の像」

尾崎紅葉著作口絵 『合本金色夜叉』(校合摺・完成品)『心中船』『金色夜叉 続編』(校合摺・完成品)

『尾崎紅葉全集』『續續金色夜叉』

泉鏡花著作口絵 『風流線』『無憂樹』『式部小路』『戀女房』『高野聖』『現代名作集 別巻』(原画)

『三枚續』(下絵・完成品・表紙絵・袋装丁)『薄紅梅』

柳川春葉著作口絵 『浮沈(前編)』(下絵・完成品) 菊池幽芳著作口絵 『小ゆき 前編』『百合子 後編』

江見水蔭著作口絵 『空中飛行器 後編』(下絵・完成品) 小杉天外著作口絵 『魔風恋風 中編』

島崎藤村著作口絵 『老嬢』(下絵・島崎藤村指示図)

尾崎紅葉関連作品 『金色夜叉絵巻』挿絵(書籍掲載 3 点・写真版 1 点・下絵 20 点・校合摺 6 点)

『金色夜叉絵巻』口絵(下絵・書籍掲載完成品)、箱装丁 『尾崎紅葉全集』装丁

尾崎紅葉原著・溝口白羊作詩 『家庭新詩金色夜叉の詩』口絵

武内桂舟画/尾崎紅葉著 『金色夜叉 前編』『金色夜叉 後編』(『名著復刻全集 近代文学館』)

川村清雄画/尾崎紅葉著 『金色夜叉 中編』(『名著復刻全集 近代文学館』)

書籍 泉鏡花著『三枚續』尾崎紅葉著『續續金色夜叉』『金色夜叉 続編』

名作物語「金色夜叉」(『苦楽』)「永眠 4 ヶ月前の紅葉先生」(『草茂美地』)

『金色夜叉(上下巻)』表紙絵 『紅葉全集(第 4 巻)』表紙絵

## 企画展 「清方、人物を描く ―四季を彩る花々とともに―」

清方は、植物を数多く写生し、季節を感じさせる風物として作品に描いた。季節の風情と江戸から明治の風俗、そして女性の美しさを融合させた清方の美人画は、大正の日本画壇において高く評価された。また昭和に入ると、幼き自身を画家の道へと導いてくれた落語家・三遊亭圓朝の姿を描いたことをきっかけに、肖像画の制作にも熱心に取り組んだ。本展覧会では、美人画、肖像画とともに、清方が季節の草花の美を追求した作品や口絵を紹介した。



会期 平成 30 年 3 月 2 日(金)～4 月 15 日(日) (開館日数:39 日)

総入館者数 2,791 人(一日平均:72 人)

### 関連事業

「春休み親子鑑賞」

【開催期間】3 月 23 日(金)～4 月 4 日(水) 期間中、小・中学生と同伴者は観覧料無料

「土から作られた日本画絵具を使って絵を描こう!」【日時】4 月 3 日(火)、4 日(水)9:30～11:30

「江ノ電沿線 PASSPORT」【開催期間】平成 29 年 7 月 22 日(土)～平成 30 年 3 月 31 日(土)

江ノ電パスポートを提示した来館者に絵はがきをプレゼント

「鎌倉小町通り・八幡宮エリア ミュージアムめぐり スタンプラリー」

【開催期間】平成 29 年 5 月 3 日(水)～平成 30 年 3 月 31 日(土)

【トークイベント】「鎌倉ミュージアムめぐり まち歩きガイド」【日時】3 月 3 日(土)12:00～13:30

【会場】鎌倉歴史文化交流館

### 関連記事

「企画展 清方、人物を描く ―四季を彩る花々とともに―」(広報かまくら 3 月 1 日)

「清方、人物を描く ―四季を彩る花々とともに―(「光のどけき」図版掲載)」(博物館研究 Vol.53 No.4)

「企画展 清方、人物を描く ―四季を彩る花々とともに―」(鎌倉逍遥 春号) 他 12 件

### 出品作品

「襟おしろい」「しだれ桜」「カルメン」「大蘇芳年」「牡丹一、二」「芍薬」「大和路の或る家」「崔承喜一、二」「教誨」「女役者 衆八」「桜乙女」「河岸」(未定稿)

下絵 「いでゆの春」「紅雨荘」「築地明石町」「三遊亭圓朝像」「藤懸静也博士寿像」

スケッチ 「橋田博士」「藤懸博士」「崔承喜」(3 点)「紅雨荘のためのスケッチ」(2 点)「大蘇芳年の墓」「志濱の筍」「蕨」「椿」「水禽」「ふきのとう」「つくし」「花えんどう」「桜」

『文藝倶楽部』口絵 「鸚鵡」「花吹雪」「白鳥」「雛壇の下」「緋桃」「都鳥」

『講談世界』口絵 「千代田の大奥」

『少女界』口絵 「花の蔭」

『新小説』口絵 「瑞香(百花百姿)」「和歌の浦」(下絵・完成品)「新緑(銅臭)」

『新小説』挿絵 「初卯」「当世女模様 花売」

『講談雑誌』口絵 「娘ざかり」「光のどけき(清方畫譜の四)」「浮いて鷗の(清方畫譜の三)」

小栗風葉著作口絵 『麗子夫人(前編)』『戀女房』

広津柳浪著作口絵 『絵師の恋(前編)』

小笠原白也著作口絵 『女教師』

山田美妙著作口絵 『桃色絹』

山岸荷葉著作口絵 『反魂記』

江見水蔭著作口絵 『大暗礁』(下絵・完成品)

川上眉山著作口絵 『観音岩(前編)』(下絵・完成品)

表紙絵 柳川春葉著『山桜』 村上浪六著『金剛盤』 小栗風葉著『恋女房』

『九州日報』附録 「醍醐の花見」

その他口絵 「上野の花」「緑蔭」

雑誌 『婦人之友』第 32 巻第 4 号